

第3回小谷村景観計画検討委員会 議事録（案）

2022/3/1, 18:00～19:00, 小谷村役場 201 会議室

議事

<質疑応答のみ記載>

（1）住民説明会参加者の意見について

（松澤委員長）今事務局から説明いただいたが、計画づくりに反対という意見がいくつか寄せられたということだった。

事務局の説明では、長野県だけでは不安なところがあるので、村として対応できるように計画づくりを進めていきたいという話だった。それについてご意見をお願いしたい。

（三好委員）住民に景観計画の必要性がうまく伝わっていないように思われる。太陽光への対応だけとられたのももったいない。小谷村らしさが出せる、例えば塩の道をこのようにしていくとか、届出規模も下げるので普通の住宅も出してもらう必要があると、厳しいかもしれないけれど、こういうふうに頑張りたいんです、という姿勢が伝わっていないのではないか。

（事務局：大日方）今後、引き続き村 HP で情報公開を進めていく。それとできるだけ分かりやすい計画の概要版を作成して、伝わるように努力していく。

（松澤委員長）説明会の場で、今のような説明をしたのか。

（事務局：大日方）話はさせていただいたが、ご意見としてお聞きすると答えており、結果は返していない。反対意見はあったが、村をよくしていく計画ということで、引き続き策定を進めていきたいと考えている。

（松澤委員長）紙ベースで計画の紹介するときに、字ばかり並んでいるものではなくて、極端なことを言えばまんがで良いので、理解しやすいようなものにしていただきたい。

(相澤副委員長) こういう所にこういうものができるようになってしまうのでこうしたい、というような具体例を示すと分かりやすいのではないかと。

(松澤委員長) 地区への説明は紙ベースでやるとしたら、個別に行くのか。回覧版に入れるとか。

(事務局：大日方) A 4 一枚に収まる程度で全戸配布をしたい。

(松澤委員長) ほかの意見については良いか。村としては進めていきたいということだが、それで良いか。

<異議なし>

(2) 住民意見（パブリックコメント）について

(松澤委員長) 今説明していただいた基本理念等について、ご意見をお願いしたい。

(三好委員) 理念はいつまでに決めないといけないか？

(事務局：大日方) 計画の素案を3月末までに確定版として決めたいと考えている。

(三好委員) なぜそのことを聞いたかという、住民のみなさんの関心を高めるのが一番課題なのではないか。いくつか候補を挙げて、住民の方に投票してもらおうなど、住民を巻き込んだ何かをすれば、多少関心を持つ人が増えるのではないかと。それだと、3月末だと間に合わないか。

(松澤委員長) ご意見としてはもっともながら、時間がとれるかどうか。

(事務局：大日方) 再度検討させていただく。

(三好委員) 村民が難しければ、年度末で忙しいかもしれないが、中学生に投票してもらおうのはどうか。1時間あればできるのではないかと。学校の協力は必要だが。

(松澤委員長) 調整は事務局に任せるといってよいか？

(荻澤委員) 2回3回の会議で、この大きな基本計画について、こうだと示すことは難しい。今あったように、浸透して

いないということを感じている。景観計画は県下の市町村で半分もできていない。国や県から指導があって進めていると思うが、拙速な気がする。これを決めてもいいよという人がなかなか出ないのではないか。この計画は初回の計画なので、ある程度決めて変えていくというやり方もあるが、全く違う意見が出てきたときにがらっと変わっては意味がない。年度末でコロナもあって会議の開催は難しい状況で、出て来る意見は大体決まってくる。できるときにこれで良いのか。住民に対して浸透していないという中で、良いものだとしても作ってもいいよという人は少ないのではないか。もう少し延ばしても良いのではないか。

(事務局：佐藤課長) 年末に住民の説明会を開いたが、少人数しか集まらなかった。浸透していないのは感じている。

年度末に素案として完成にもっていきたいと進めているが、委員のみなさんのご意見をいただきながら、住民の皆さんにも理解してもらいながら進めていく方向が取れればと感じている。年度末にこだわらず、完成に向けて進めていく必要があると感じている。

(松澤委員長) 確かに、住民の関心が低くて人も集まらず、意見も出ないというのは事実かと思う。ただ、先送りをし

ても結局関心が高まらず、同じ結果でしたというのではなく、期間を延ばせたとしても、あまり先にせずに短期集中で、住民の話題がそこへ集中するような、そのくらいの進めた方が良いのではないかと。

(事務局：大日方) 今のご意見を踏まえて、期間を延ばすことも考慮して調整する。

(荻澤委員) 事務局がころころ変わって大丈夫か。中学生に聞いても、今の時点で内容を理解してもらうのは難しい

のではないかと。大人に浸透させるのも難しい。今年は雪が非常に多くて地区の会合も難しい。そんな中で決めて行ってよいものか。できた後で「なんだこれは」と言われるのは避けたい。

(三好委員) 前回配られたスケジュールだと、令和4年10月に全面施行というスケジュールになっているが、現状では

半年程度延びていると思う。終わりの時期から逆算してどうなのか。

(荻澤委員) せっかくの会議なので、委員の皆さんの意見を一人ずつ聞いた方が良いのではないかと。

(事務局：大日方) 前回の委員会で寄せられた、委員のみなさんからのご意見を先に説明させていただければと思う。

(3) 検討委員からの意見について

(松澤委員長) それぞれのご意見を伺いたい。

(深澤委員) スケジュール的には忙しいところがある気がする。住民への説明として懇談会を開いても人が集まらないという中で、周知がなかなか難しいと思う。

(栗田委員) 道を広げる、目障りのものを何とかする、ということなら分かりやすい。今の素案では具体性のない言葉が多いので、理解が難しい。岩岳の頂上にブランコができて大変眺めも良くなったが、そこへ行ったお客さんが「あそこにあんなものを作って」と散々言っていた。良いと思っても、反対の意見もある。塩の道のすばらしさを残すのはその通りだが、誰かがやる必要がある。草刈り一つにしても、具体的に書く必要があるのではないかと。廃屋は何とかしたいとみんな思っている。屋根が落ちたら壊す、というような具体性がないと難しいと思う。

(渋谷委員) 景観づくり住民懇談会から出ていて、それらで出されてきた意見を尊重してまとめていただいた中で、基本理念や基本方針ができあがっていると理解している。あとはパブコメで住民に投げかけて、条例を作っても良いのではないかと考えている。

(千國委員) 初めから違和感があったのが、太陽光の規制について、今村内にほぼないものを規制するというのが、村民の皆さんの関心が湧かないのではないかと。きれいな景観を守りたい、守るために何を規制するかということを知りやすく説明することで、関心を持ってもらえるのではないかと。

(松澤委員長) 小谷に現実にはないからイメージが湧きにくいということか。

(千國委員) それがパブコメをやっても意見が少ない理由ではないか。もう少し時間がかけられるならば、改めて説明が必要ではないか。

(沢渡委員) 計画づくりの話が始まって2～3年、コロナの前からやっていた。初期の頃で最大集まって6～7人。3

テーブルがあっても、1つにしか集まらないくらい。全部参加してきたが、段々人が少なくなって、2～3人になっていった。関心が浅いというか、宣伝が行き届かないのか分からないが、人が会場に来ないのは事実。これから2～3年と時間をかけてやっても同じことではないか。中身は出てきているので、ある程度でまとめて、村民に示して、その結果を直して決めて行くという方向に行った方が良いのではないかと。いつまでたってもうまくいかないと思う。

(鷺澤委員) 住民の方の景観計画に対する意識が低いというのは事実で、具体的なものを示していないから分かりづらいたというのは確かにその通り。期間を延ばせるのであれば、どうやって関心を持たせていくかを検討委員の皆さんで意見を出して、住民の皆さんの理解度を高められるかが大事かと思う。

(堀委員) PRの限界も正直あるのではないかと。PRするためにできることは何か、その限界をある程度決めておいて、そこまでやってから決めてしまうというやり方もあるのではないかと。

(丸山委員) 景観計画の素案を出してもらっているが、対象範囲が広いと感じている。自分の専門分野については意見を言いやすいが、専門外の方も意見を言っていかなければならないという難しさがある。まんがなどの分かりやすいダイジェスト版で見せていく必要があるかと思う。それによってスケジュールがどう変わっていくかという点はあるが。

(相澤委員) 観光に従事している者としては、新しく参入するのであれば、できるだけ目立つ建物を造りたいとどうしても考えてしまう。そこを規制してよいものかは、観光に携わる立場からは疑問に思う部分もある。それが例えば柵池の百体観音の辺りの田んぼに外国の人が土地を買って建物を建てるようなことがあれば、景観がガラッと変わってしまう。場所の特性もあると思うので、例えばここに建物ができたらどう思うか、ということを見せしていくことで景観条例が大事だということを示すなど、もう少し時間をかけていく必要があるかもしれない。

(松澤委員長) 今一通り意見をいただいたが、荻澤委員はどうか。

(荻澤委員) A3一面程度で、ポンチ絵でもダイジェストでも良いが、地域ごとに見せていく必要があるか。白馬では

オーストラリアが来たり香港が来たり、そうことが現実に来ている。次は間違いなく小谷村に来る。そういうことを急に言っても分からない。条例の手前の計画の概要を分かりやすいものにして配り、みんなで一緒に考えるという方法が良いと感じている。

(三好委員) ここへ来る前に県庁の担当と電話で話し、住民の方に理解してもらうこと、県の条例との違いをはっきりと出すこと、この2点について検討委員会で方向性が出れば進むのではないかと、ということを通識として持った。景観計画の素案は行政関係者でも理解が難しいので、住民にはなおさらだ。A3一枚ぐらいに重要なものをまとめて、まず分かってもらうということが大事ではないか。

(松澤委員長) 一通りご意見をいただいた中で、統一していただいた意見としては、住民の浸透が浅いので、住民に分かりやすい資料が必要ということだった。それとスケジュールについては検討が必要だが、今いただいた意見を踏まえて再度事務局で練り直してもらうことでよいか。

(沢渡委員) 外国の資本がすぐにも入ってくるという話を聞いたが、村の人たちはのんびりしていてそのことを知らない。小谷村は今まで変わってこなかったから、これからも変わらないと安心している。今のうちに手を打たなければならぬと思う。

(松澤委員長) 大町へ行けば、太陽光がいたる所にある。白馬では5階建ての建物を建てようとした人がいたという話も聞いている。今の素案を無駄にするのではなく、これを元に住民に浸透するような資料を事務局で作ってもらうということでよいか。

(異議なし)

(4) 今後のスケジュールについて

(事務局：大日方) 本日のご意見を踏まえて再度検討して調整させていただき、次回については改めて案内させていただきます。

ただ。

以上